



### 定員を上回る 289 名が参加 半数はコ・メディカルスタッフ

大会初日の 8 月 27 日、社団法人全国老人保健施設協会医療研究会（略称：老健医療研究会、漆原彰会長）の第 2 回研究会が開催された。

今回の参加者は 289 名と前回に引き続き定員を大きく上回る盛況ぶりを見せた。参加者の半数がコ・メディカルであり、医師だけではなくコ・メディカルスタッフの関心も高かった。

### 適切な医療は看護・介護を援護する（中島氏） 認知症短期集中リハビリは有効（鳥羽氏）

老健医療研究会は、老健施設における医療のあり方等について学術的・専門的な研究発表をする場として昨年発足。今回の研究会は「老健における医療の実際」と題して、教育講演、指定講演、シンポジウムという構成で行われた。プログラム内容は昨年研究会のアンケートがベースになっている。

講演のテーマと講師は次のとおり。

教育講演

「高齢者の医療—老健利用者を念頭におきつつ—」  
中島健二氏（京都府立医科大学名誉教授（神経内科学）、蘇生会総合病院名誉院長）

指定講演

「認知症短期集中リハビリテーションの効果」  
鳥羽研二氏（杏林大学医学部高齢医学教授）

中島氏は、高齢者の医療に関するテーマのなかから老健施設の利用者に多く見られる「認知症」、「脳卒中」、「パーキンソン病」に絞って講演を行った。脳画像など豊富な資料を示しながら各疾患の症状を解説し、「老健の基本は看護・介護。しかし、適切な医療は看護・介護を援護する」と締め括った。

鳥羽氏は、自身が研究事業班の班長を務める全老健の平成 19 年度国庫補助事業「認知症短期集中リハビリテーションの実践と効果に関する検証・研究事業」の結果を報告。データの解析結果を示し、認知症短期集中リハビリはきわめて有効であると結論づけた。さらに、認知症短期集中リハビリによる周辺症状の改善によって在宅系居所への復帰効果が期待されることを報告した。



教育講演を行った中島健二氏



指定講演を行った鳥羽研二氏



シンポジウム。シンポジウムには中島氏も参加



質問が相次いだ質疑・応答

### 「薬物療法」、「認知症」、「嚥下障害と 口腔ケア」の 3 テーマによるシンポジウム

シンポジウムにおいても高齢者医療における重要なテーマが取り上げられ、全老健学術委員会委員長の江澤和彦氏を座長に進行。シンポジストとテーマは次のとおり。

シンポジウム「老健における医療の実際」

シンポジスト

「高齢者の薬物療法」

秋下雅弘氏（東京大学医学部附属病院老年病科准教授）

「高次脳機能から見た認知症」

玉井 顯氏（敦賀温泉病院・介護老人保健施設ゆなみ理事長）

「医療面から見る嚥下障害と口腔ケア」

舘村 卓氏（大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座准教授）

秋下氏は、薬物による有害事象を少なくするた

めの対処法のほか、投薬に慎重を要する薬を紹介。さらに、服薬管理・服薬支援についての解説など多岐に渡る内容となった。

玉井氏は、認知症の症状を高次脳機能の角度から解説。高次脳機能を知ることが、認知症高齢者の行動をより理解するために有効であることを紹介した。

舘村氏は、口腔ケアや食形態などについて、現場で見られる「誤解」を指摘。適切な嚥下障害と口腔ケアを行うためのさまざまな手法を解説した。

質疑・応答では質問が相次ぎ、今回も「もう少し時間がほしかった」（漆原老健医療研究会会長）というほど充実した研究会となった。

第 3 回は平成 21 年 7 月 22 日から 3 日間開催される第 20 回全国介護老人保健施設大会 新潟の初日に行われる予定。（編集部）

※『老健』10 月号「全老健の周辺」に第 2 回老健医療研究会について、漆原老健医療研究会会長インタビュー記事が掲載されています。